

初の全国大会出場に意気込む函館高等支援学校スポーツ部の生徒たち



「励まし合い一丸で戦いたい」

函館高等支援 全国へ スポーツ部初出場 フットサル挑戦

函館高等支援学校（立田俊治校長、函館市石川町）のスポーツ部が、11月に札幌で開かれる特別支援学校が集まるフットサルの全国大会に出場する。新型コロナウイルス下で練習時間は限られているが、スポーツ部が全国大会に挑戦するのは初めて。生徒たちは「勝ち負けにこだわらず一丸となって戦いたい」と意気込んでいる。（野口今日子）

大会は11月6日に札幌市豊平区で初開催される「全国特別支援学校フットサル大会」（一般財団法人日本LCIF主催）。全国9地区で予選が予定されていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止になった。同校は北海道地区の特別支援学校16校から抽選で、唯一の「道代表」に選ばれた。

同高等支援学校のスポーツ部はバスケットボールや卓球、バドミントンなど、1年間を通じてさまざまな競技に取り組む。今回のフットサル全国大会には部員27人から8人を選抜する。

週1回の部活動は緊急事態宣言発令で休止しており、部員たちは昼休みや放課後などの空き時間に少人数で集まり自主練習に励んでいる。2年の市戸深太

顧問の山本正彦教諭（24）は「自主的に練習するなど部員の気合は十分。フットサルを通じて部員同士のきずなをさらに強めてほしい」と話している。